

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590101145		
法人名	株式会社 ビジュアルビジョン		
事業所名	けあビジョンホーム宮崎		
所在地	宮崎市 清武町今泉甲3712番地		
自己評価作成日	令和2年8月24日(月)	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和2年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご家族の負担軽減と特変時の迅速な対応を行うため、定期受診からイレギュラーな受診まで一貫して事業所に対応している。ご利用者様の体調管理の為、日中は、ほぼ毎日看護師の対応が可能なおよ職員配置を行っており、その人らしい生活が継続できるよう、定期薬の見直しを行い減薬にも努めている。

また、現在コロナ禍により外出機会が減少し、定期的な気分転換が図れていないこともあり、感染対策を考慮した外出を企画している。(※車内からでも景色などが楽しめる場所へのドライブなど)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

269号線が近くにあり交通量も多いものの、コンビニや商店が並び近くには消防署がある場所に位置している。近くには山々が見える静かな場所である。入居者は毎日散歩に出かけて、地域の住民に柿を頂いたり声をかけてもらっている。管理者は自ら職員の先頭に立ち入居者と向き合っている。職員も信頼し何でも相談できる環境にある。正職は毎日パソコンで日報入力し管理者・法人の上司が目を通し、提案された事に対し改善されたことや、アドバイスをもらうこともあり勤務の励みになっている職員もいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、中礼時に理念を唱和し心を改め職務に挑む事が出来ている。	地域密着型サービスを職員全員で確認している。理念は令和2年3月開所時に経営理念を掲げ毎朝朝礼・中礼時に全員で唱和し、理念を意識した実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で、出来ていない。	地域の自治会に加入しているが、コロナ感染予防のため行事等には参加していないが、散歩の途中で柿を頂いたり声をかけてくれる住民もいる。近くのアイスクリーム店に入居者とアイスクリームを食べに行く事もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェに登録したが、現在まで日程などが合わず参加出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議がコロナの影響でできていないが、苦情や事故の件数、ヒヤリハットの件数、施設での状況を報告している。	2か月に1回の計画は作成されている。行政・地域の自治会代表・地域包括支援センター・入居者家族・入居者等に案内を出している。コロナ禍で開催出来ていないので、ホームの状況を毎回文章で報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在、市町村担当者と密に連絡をとる関係性はまだ構築できていない。事故発生の報告や運営推進会議の議事録の送付のみになっている。	町役場に出向き事故発生状況を伝えたり、運営推進会議議事録を送付している。まだ担当者と密な連携は取れていないが、連携が取れる様努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望が強く、単独外出しようとする為、玄関の施錠をしている。勉強会が不足している。資料を回覧している。	ホームは1階と2階に分かれていて、近くに269号線があり交通量も多く危険な為、1階の玄関は施錠されている。屋外に出たい入居者には職員が屋外に付き添っている。身体拘束の資料を配布し声掛けに気をつけ、気づいた時にはその場で注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	お互いに見て見ぬふりをすることなく、注意をしていくことで防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解について学ぶ機会などを設けることが出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際には書面を用いて説明を行い、質問ありませんかと確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議がコロナの影響でできていないが、苦情や事故の件数、ヒヤリハットの件数、施設での状況を報告している。	家族の意見や要望は電話で話をしている。短時間で別室で面会できる工夫をしている。入居時多くの内服薬を服用していた入居者が、家族との話し合いで内服薬が不要になったケースもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	機会も設ける事が出来ていない。	月1回のミーティングで職員の意見を聞いている。職員の方の意見を各自パソコン入力してホーム長・法人の上司が読める様になっていて改善された点もある。アドバイスもいただけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社員に対しては年1回の自己実現180度会議を実施し、上司1人が評価するのではなく複数の上司が評価をする制度を導入している。又、目標管理シートにて社員一人一人が自己評価をできる仕組みを導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修など外部研修への参加を会社が費用負担し推奨している。正社員は年2回の研修がある。施設内での研修は出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのネットワークづくりにむけての取り組みは出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設入所前に職員と共に訪問し挨拶に向かい、ご家族様・ご本人様の意向聴取を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入所前に職員と共に訪問し・挨拶に向かい、ご家族様・ご本人様の意向聴取を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居する際にご本人様・ご家族様の意向確認を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しや衣類たたみ、テーブル拭き、食器洗い、食器拭き、料理など、衣・食・住に関するご本人様が出来る事を見極め共にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在、コロナ禍ということもあり、ご家族様がお見えになられていない間のお身体や生活の様子を定期的にお伝えし、必要に応じて受診に行っていたり、密に情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが一時落ち着いた期間は、ドライブや買い物などの外出支援を行っていたが、現在は行えていない。	近隣の美容室に出かけたり、ドライブに出かける事もある。友達から電話があり近隣の駐車場で車の窓越しに話をしたケースもある。コロナ禍で馴染みの人に合うことも少ないが関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のなじみの関係を把握し、ホールでの座席位置など配慮している。また、ご入居者様同士の会話や声掛けにも耳を傾け、トラブルになりそうな場合はさりげなく職員が間に入り、場が和むように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだ、行えていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの作成にあたり、ご本人様の意向確認に努めている。意向確認が困難な場合は、ご本人様の身体・生活状況を踏まえご家族様にご意向の確認を行っている。	日々のかかわりの中で言葉や表情から本人の意向把握に努めている。意向確認が出来ない場合はご家族からの情報を参考に、状態把握をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎日新聞を読む、お酒が好き、歌うのが好きなど、嗜好や得意なこと、日課などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録や申し送りでの伝達、または職員間の直接口頭での伝達などご利用者様一人一人の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの作成にあたり、まずはご本人様に聞き取りを行い、聞き取れない部分は日常の様子など職員聞き取りをし、必要に応じてご家族様にも希望を確認しプランに反映している。	アセスメント用紙はホーム独自の物を使用している。本人の意向を聞き取り、家族の思いを反映させたケアプランが作成されている。モニタリングはケアマネジャーが職員の情報を基に作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートを活用し、情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変わらぬご利用者様の心身状態にどの様な支援が良いか職員間で相談・意見交換を行い、臨機応変に対応できるよう連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握には努めているが、コロナ禍ということもあり、利用するには至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様の状態を伺いながら、ご家族・かかりつけ医と密に報告・連絡・相談を行い、適時適切な医療が受けられるよう連携を図っている。	これまでのかかりつけ医を継続しているが、協力医が何時でもサポートできる環境が出来ている。職員の中に看護師資格を持っている方が2名いて医療との連携が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の日々の変化を看護師に伝え情報共有し、適時適切な対応ができるよう連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、医療機関に迅速に看護サマリーを提供し、また、地域連携室等と情報共有し、入退院時の流れがスムーズにいくよう連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	要介護認定後に重度化した場合に関わる指針及び看取りに関しての同意書を頂いている。	入居時に看取りについて説明を行い同意をもらっている。状態が悪化した場合、再度かかりつけ医の意見を聴いたうえで話し合いを行っている。看取りマニュアルは作成されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様の状態変化があった場合、看護師に報告し判断を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3日分の水、食料を保存している。防災訓練を年2回行う予定。地域との協力体制を築きたい。	災害対策マニュアルが作成されている。防災訓練計画は作成されているが、コロナ禍でまだ実施出来ていない。避難場所は隣が1段高くなっているため避難場所になっている。水や食料も備蓄されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これまでの生活歴や環境を把握し、その人にあつたお声掛けをするよう努めている。	個々の人格を尊重しその人に合った声掛けに気をつけた対応をしている。職員間で気付いた時はお互いに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を通し、職員主体にならないようご利用者様の意向を汲み取ることができる声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りご利用者様のペースに合わせた会話やケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の意向を確認しながら、衣服であればご自分で選べるよう準備したり、声掛けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には声掛けし手伝って頂いているが、できない方が多いため、する方は限られている。	献立は本社で作成されたものをホームで入居者と職員で調理している。入居者と買い物に行きビールを買う方もいる。限られた入居者になるが後かたづけも職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮し、個々に応じた食事形態で提供している。また、一日の水分摂取量が少なくならないよう、細目に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様個々の状態に合わせ準備や介助を行っているが、中には断られたり、指示が通りにくい方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している方は、そのままの状態を維持できるように見守り・声掛けをし、要介助の方は、少しでもできる事を伸ばしていけるよう努めている。	日中は排泄パターンを把握し周りに気付かれない様にトイレ誘導を行っている。夜間のみポータブルトイレを使用している方もいるが、できるだけ排泄の自立につながる支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容での工夫や服薬コントロール、レクリエーションを通して身体を動かし、腸の動きが良くなるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度曜日や時間帯を決めているが、その時の状況により入浴拒否などもある為、声掛けや時間・日にちをずらす等工夫をしている。	入浴は週3回であるが、希望があれば何時でも対応できるようにしている。入浴拒否のある方には別の日に声掛けしている。入浴しない方には足浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様のその日の状況に応じて、居室で休んで頂いたりフロアでくつろいで頂いたりできるよう、目配りと声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様一人一人の疾患と内服薬の把握に努め、また、内服薬の変更時は、職員間で変更後の状態観察について伝達・周知し、特変時の報告がスムーズにできるよう促している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様が進んでくださる事は尊重し、対応している。今後は、個々の趣味や嗜好に合わせての対応も充実できるよう努める。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて感染リスクがあり外出支援が困難ではあるが、車内からでも景色が楽しめる場所にドライブしたり、近隣の散歩をしている。また、ご家族様で定期受診のため外出して下さる方もいる。	コロナ禍で外食が出来きず、近くのコスモスが咲いている場所に、弁当を持って出かける計画がある。天気の良い日は毎日散歩に出かけ地域の方が声掛けをしてくれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の持ち込みは原則禁止されているが、買い物のため外出の訴えがあるご利用者様では、小銭を持って頂き、100円でビールと交換することで買い物気分を味わって頂くなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族様に電話をかけ、お互いに安心されている。携帯電話を持ち込まれている方もおられ、自由にご家族様と連絡を取り合っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々掃除を行い、毎月ご利用者様と共に季節に合わせた飾りつけを行っている。	共同空間は広くて窓越しに山々の景色が見える。ガラス戸を開けるとベランダがあり腰掛が設置されている。調理室とフロアーが続きになっていて、明るい使いやすい空間になっている。廊下には似顔絵や手作り作品が掲示されくつろげる雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者様同士の席を近くにしたりと座席も配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていたなじみの家具やソファなどの持ち込み以外に、お仏壇を置かれている方もおられる。	居室には使いなれた家具やソファが設置されている。本人に合ったベットがありくつろげる空間になっている。仏壇を飾り毎日手を合わせ居心地よく過ごせる様工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分かりやすいよう名前を大きく掲示したり、トイレなど普段使いの場所が夜間でも分かりやすいよう、大きく掲示しく工夫している。また、転倒など事故リスク軽減の為、適時共有スペースの整理整頓に努めている。		